集って、話して、コミュニティをリブートしよう

2023年は、アフターコロナ元年。
後世にそう語り継がれるであろう、時代の転換期を迎え、
社会のあちらこちらで「仕切り直し」が起こっていると感じます。
コロナ禍がもたらしたライフスタイルや働き方、価値観の多様化と、
拙速なデジタル化をどう受け止め、どんな未来を目指していくか。
社会が、企業が、人々が再び動き始めました。
私たちFUJITSUファミリ会もまた、改めて目指す場所を定め、
リブート（Reboot＝再始動）します。新たな一歩を踏み出すにあたり、
今号では代議員・理事、広報担当幹事の交流会の模様とともに、
今後の活動方針をご案内します。

Contents　会報Family VOL.410

③ **Annual Meeting 2023　代議員総会・意見交換会レポート**

⑦ **Family Editorial Meeting　全国編集会議レポート**

⑪ **Futures' Literacy**
生産から食卓まで、健やかで幸せな「食」を次代につなぐFoodTech

⑯ **BranChannel**
From 東海支部：いつか来る震災に備え、地域の力を結集する「TeamBuddy」

⑱ **Family's Information**

⑳ **Family's Event Picks　全国の人気セミナー・注目イベントをレポート**
- ビジネス交渉のイロハを習得した２日間
- 女性が私らしくイキイキと活躍するために

2023年度 代議員総会・意見交換会レポート

仲間とともに、FUJITSUファミリ会の未来像を語り合う

2023.5.19 Fri
＠帝国ホテル

去る5月19日、全国から36名の代議員の出席を得て、2023年度代議員総会および意見交換会が開催されました。

総会では、2022年度の活動・会計報告に続いて、本年度の活動方針、予算案、本部役員候補が承認されました。

特記事項として、今総会では会則改定の議案が提出され、審議のうえ承認されましたので、ここにご報告いたします。会則改定の目的、内容については、会長からのメッセージをご一読ください。

2023年度 FUJITSUファミリ会活動方針

活動スローガン

富士通ユーザー会として、富士通との相互コラボレーションを通じ、会員ビジネスおよび地域社会の成長・発展に寄与する

2023年度
3つの柱

1 会員と富士通とのコラボレーション（共創）の実践

2 会員ビジネスをデジタル活用で支援する取り組みの研究と実践

3 地域の枠を越えた活動の展開と、地域の新たな魅力を生み出す活動の実践

会長メッセージ

富士通と連携を図りながら、会員ビジネスと地域社会の成長・発展に寄与する活動を展開してまいります。

2023年度、会長を仰せつかりました、第一生命情報システムの佐藤でございます。昨年に引き続き対面での代議員総会を開催できたことを大変うれしく思います。

昨年度より、リアルな活動が徐々に展開できるようになり、多くの会員様と直接、顔を合わせる交流が可能となってきました。また、質の高いコンテンツを全国共通コンテンツとして提供する活動も定着化してきました。コロナ前に戻るのではなく、オンラインと対面、双方のメリットを活かした活動を推進し、秋季大会では、沖縄での現地参加とオンラインによるハイブリッド形式での開催も実現いたしました。

このように、2022年度のファミリ会は、体験価値向上による会員ビジネス活性化の推進を図ってまいりました。さらに、ファミリ会の目的を再認識し、富士通のユーザー会として理想とする「あるべき姿」も検討し始めました。

今後、ファミリ会ではこれまで以上に会員と富士通（グループ会社含む）によるコラボレーションの促進と、相互の利益増進に寄与する活動が求められます。そのためには、ファミリ会と富士通がともに討議し、ファミリ会の意見を富士通の活動に反映する、また、富士通の意見をファミリ会活動へ反映することが必要です。

そのことから、私より、富士通からファミリ会役員として常任理事の選出を提案いたしました。しかし、現会則では富士通の方がファミリ会の役員に就任することができないため、今回の代議員総会において、富士通の方をファミリ会役員に選出できるよう、会則の改定を審議し、承認をいただきました。

これを受けて、2023年度は、富士通と連携を図りながら、ますますの発展を目指して、会員ビジネスと地域社会の成長・発展に寄与したいと考えております。皆様におかれましては、より一層のご活用と、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

最後に、ファミリ会の「あるべき姿」は、まだまだ検討半ばの状況です。ファミリ会のより良い姿を目指し、会員の皆様のお知恵をお借りしたく、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

FUJITSUファミリ会 会長
第一生命情報システム株式会社
佐藤 智

10年後、FUJITSUファミリ会はどうなっている？

意見交換会

一人ひとりの思いを集めて あるべき姿・ありたい姿を描いてみる

ここからは、代議員総会終了後に開催された意見交換会の模様をレポートします。10年後を見据えたFUJITSUファミリ会の「あるべき姿」について、活発な議論が交わされました。

背景にあるのは、ファミリ会の現状に対する“危機感”

「ファミリ会が富士通と会員、相互の利益増進に貢献する会に発展するためには、どのような姿が理想的か。皆さんの忌憚のないご意見を伺い、今後の具体的な検討にフィードバックしていきたいと思っています」。意見交換会は、佐藤会長による趣旨説明で幕を開けました。

「取り組みの背景には、ファミリ会は、会員が求める価値を本当に提供できているのだろうか、という危機感があります」と佐藤会長は続けます。近年では会員数が減少傾向にあり、行事への参加率も50%前後にとどまっています。ユーザー会を取り巻く状況が厳しいのは富士通に限ったことではなく、実際、同業他社でもユーザー会を解散する動きが見られます。コロナ禍の影響でオンライン開催が主体となったことはもちろん、DXをはじめITシステムを取り巻く課題が高度化・複雑化する中で、ユーザー会の存在意義が問われていると考えられます。

とはいえ、今回の意見交換会は決して後ろ向きなものではありません。「解散するのはいつでもできますが、いったん解散した組織を再び育て上げるのは困難です。これだけの規模を持つユーザー会は、ほかには見られないものであり、富士通、会員の双方にとって貴重な財産となり得るはずです。FUJITSUファミリ会が双方の利益増進につながるよう、10年後の未来を見据えて、前向きに検討していきたい」と、佐藤会長から力強いメッセージが送られました。

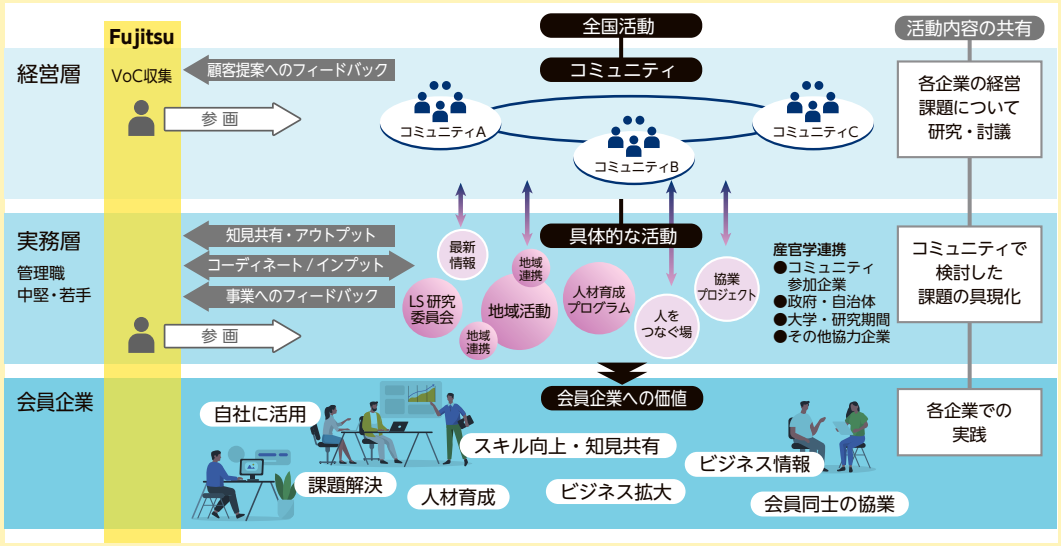
ワーキンググループが検討した「あるべき姿」をたたき台に

会長挨拶に続いて、2022年10月の立ち上げから半年以上にわたって活動を続けてきた「ファミリ会のあるべき姿検討ワーキンググループ（以下、WG）」の検討結果が、WGメンバーである有司理事から報告されました。

WGでは、まずファミリ会の現状について「価値」「つながり」などテーマごとに課題や目標を整理することからスタートしました。そこから目指すべき方向性として見えてきたのが「日本のIT全般のユーザー会になること」「富士通ユーザー以外も集まってくるようなコミュニティになること」の2点でした。

この方向性を、具体的にイメージできるよう図示したものが「あるべき姿：Our Vision」であり、WGでは「現状の姿」と比較しながら、その実現に向けてどのような取り組みが必要か、検討を進めています。（下図参照）

（WGより提案された「あるべき姿：Our Vision」ドラフト版）デジタル/ITを有効活用した事業の改善/改革/進歩に関する会員企業相互の情報交換・交流により、互いの課題解決や利益増進に寄与するコミュニティ



改革ポイント

Point1
実務担当者だけでなく経営層の参画を促し、会員企業同士の横のつながり・交流も強化する。

Point2
地域（支部）の枠にとらわれず、活動テーマごとに、核となるコミュニティを形成し、広げていく。

一人ひとりの思いを集めて あるべき姿・ありたい姿を描いてみる

具体的な改革案として、実務担当者だけでなく経営層も巻き込んでいくこと、地域の枠を越えてコミュニティとしてのつながりを広げていくこと、などを紹介したうえで、「これらは決定事項ではなく、あくまで議論を円滑にするためのたたき台です。参考にしていただきながら、自由闊達な意見交換に期待しています」と有司理事は強調しました。

WGメンバー

会長	第一生命情報システム株式会社	佐藤　智
常任理事	日本通運株式会社	大林 孝至
常任理事	古河電気工業株式会社	杉井 貴明
理事	近鉄情報システム株式会社	有司 順一
理事	株式会社サタケ	松本 和久
理事	株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社	風間 隆男

WGを代表してプレゼンされる有司理事

予想を超える活発な議論が交わされたグループワーク

ここからはグループごとのワークショップとして、AからHまで8つのテーブルに分かれて、「あるべき姿：Our Vision」や、それぞれが考えるファミリ会の未来について討議されました。初対面同士のメンバーも含まれているため、自己紹介からスタートしたグループワークは、次第に熱を帯び、30分の予定時間をオーバーするほどの盛り上がりを見せました。

最後に各グループの代表者から議論の結果が発表され（次ページ参照）、予想以上に多様な提言が行われました。忌憚のない意見が飛び交う中、他グループの発表に耳を傾ける参加者の姿からは、自分にはなかった視点や意見に触れて、互いに刺激を受け合う様子が見て取れました。

佐藤会長による締めの挨拶で「主催者側の想像を超える活発な意見に驚いています」と述べたように、実りの多い意見交換会となりました。

FUJITSUファミリ会創設60周年に向けて

WGでは、今年6～7月にかけて、メンバーが各支部を訪問し、より多くの意見を収集しながら、ファミリ会の改革に向けた方向性を検討。創設60周年の節目となる2024年度には、「あるべき姿 」の実現に向けた具体的な施策をスタートさせる計画です。

意見交換会の締め括りに、佐藤会長は次のように語りました。「ファミリ会の会員企業はみんな元気があって成長・発展しているよね。だから富士通にも元気があって、日本中から多くの企業がファミリ会に加わり、結果として日本全体が元気になってきたね、と言われるようなユーザー会を目指していきたい」この言葉に、参加者全員が盛大な拍手を送るとともに、ファミリ会の未来を切り開こうとの想いを共有していました。

グループワークより

意見交換会

解決すべき課題、目指したい将来ビジョンを抽出

Group A

- 富士通社員との雑談の機会が減っている。「ユーザー会」ではなく「ファミリ会」であることを意識して、関わりを深めるべき。
- 会社単位でなく、会員企業の一人ひとりが参加できる会になるよう、会へのアクセスを容易にすべき。
- 経営層にとって魅力あるコミュニティにすることが、会員数の増加や退会防止につながる。

Group B

- いたずらに活動範囲を広げず「シンプル化のための断捨離」を
- 参加意識を高めるために「コミュニティはテーマごと」
- 会員企業のITリテラシー向上に資する取り組みを「LS研に学ぶ」

Group C

- 会員ごとの利用状況にばらつきがある。現状を分析してメリットをアピールすることが利用促進につながるはず。
- 富士通のネットワークを活かして、社会課題の解決に貢献するための情報・取り組みに注力すべき。
- オンラインなども含めて、支部の枠を越えたサークル活動があってもよいのでは。

Group D

- システムの課題は富士通一社だけで解決できない時代になっている。ファミリ会だけでなく、経団連や他社ユーザー会などとの連携を図ってもよいのでは。
- 会員企業だけでなく、富士通にとってもメリットがないと続かない。いかに双方のメリットを見出していくかが問われる。
- IT部門だけでなく、総務、人事など各部署の課題に目を向けていくべき。

Group E

- ユーザー企業内でシステムごとに目的が異なるため、提供するコンテンツやサービスの目的を絞り込むのが難しくなっている。
- 参加率が低いのはファミリ会の活動内容が会員企業の社員に伝わりきっていないため、もっと周知すべき。
- 参加していた他社のユーザー会が解散して、非常に残念に感じた。ファミリ会の魅力をもっと多くの会員に理解してほしい。

Group F

- システム部門に限らず、幅広い部署の社員に参加してもらえるよう、部門ごとに登録してもらって直接交流する仕組みがあればよい。
- 会員数だけでなく、コンテンツの利用者数を重視し、どのように利用者を組織化するかを検討していくべき。
- 「プレミアム会員」「スタンダード会員」といったグレードを設けて、会費や利用サービスに変化を付けてもよいのでは。

Group G

- 参加する個人のプラスにはなっているが、会員企業全体にとってのメリットになるような仕組みが必要。
- 人材の流動化が進む中、人材育成への貢献がどれほど企業のメリットになるか疑問がある。
- 単に情報を得るだけのセミナーではなく、意見交換できたり、企業に持ち帰って活用できたりといった付加価値が求められる。

Group H

- 次世代向けにアクションし、ファミリ会の良さを伝えていく必要がある。関東支部の若手幹事会は好調に活動している旨、報告があった。
- あるべき姿も、10年後に中心となるメンバー（若手）で検討するのがよい。
- 会員同士の異業種交流、会話ができる場はもっと作ってほしい。お互いの活動について情報交換したい。
- 会員各社の課題や悩みをファミリ会のコミュニティで解決できるとよい。

ご意見・お問い合わせはこちら ▶FUJITSUファミリ会事務局 E-mail:contact-familykai@cs.jp.fujitsu.com